

たびとしんこう ふじおおやまはるなへのさんけい

#23 旅と信仰 富士・大山・榛名への参詣 特

別展

作者：板橋区立郷土資料館（いたばしくりつきょうどしりょうかん）

刊行：平成8年（1996）



📖 解題

■ 内容

『旅と信仰』は板橋区立郷土資料館での特別展の図録である（会期平成8年（1996）2月10日から3月24日）。板橋地域にとって身近な霊山である富士・大山・榛名への参詣活動をテーマとして取り上げているが、ここでは大山についての記述に絞って紹介する。

江戸時代以降の庶民が遠隔地にある寺院や神社、特に山岳宗教の地へと参詣していったという事実とその行動面について、これを歴史的な視点から考えていこうとしている。

また、このような「信仰と旅」を支えてきた各地の「講」組織が、時代の変遷とともに衰退へと向かい、その関係資料が失われつつある中で、未紹介で各参詣地に現存している貴重な資料を広く展覧、紹介していくことも目的としている。当時の人々が抱いていた大山への信仰と、それともなう「旅」といったものが、どのようなものであったのか、またそれらを生み出した当時の社会状況といったものはいかなるものであったのか、さらには現代を生きる人々の日常生活の中に大山の信仰はどのように生き



[K17.64/46]

第3章 思想・宗教

続けているのか等の問題に答えようとしている。本図録では、「描かれた大山・参詣・信仰」、「相州大山の史跡」、「先導師の家」、「大山信仰関係資料」などの写真図版などで大山信仰を紹介している。大山関係資料として、錦絵、大山代々積立帳、御札、木太刀、参詣図絵馬、奉納額、まねき、白衣・金剛杖・草履、弁当箱、太々講大盃などが掲載されている。

江戸中期以降は、富士参詣の帰りに大山へ参詣しないと片参りと言われ、一つの参詣ルートになっていた。さらには講によって3・5・7・15歳の男子が大山に向かい、特に15歳の男子は成人としての儀式的の意味も込められていたという。巻末には庶民の山岳登拝についての解説と、各地の講の紹介が記載されている。

当館以外に、国立国会図書館、都立中央図書館で所蔵が確認できる。

■ 作者

板橋区立郷土資料館は、赤塚城址及び赤塚溜池公園に隣接し、板橋区の歴史や文化・自然に関するさまざまな資料、情報の展示を行い、講演会・講座・体験学習を通じて情報発信をしている。毎週月曜休館日。開館時間 9時30分～17時。

参考文献

『相模・武蔵の大山信仰』関東民具研究会編 岩田書院 2011 [K38/234]